

2014年(平成26年)

8月14日

木曜日



天声人語

富士山には「白い川」があると教わった。かつて山小屋のトイレにたまった内容物は山肌に垂れ流された。それに混じったトイレットペーパーが白く筋状にこびりつく現象をいう。見苦しいし、汚い。霊峰としてはまことに不面目である▼最近富士山のトイレ事情も改善されてきているという。先日登頂した同僚は、十数年前との様変わりには驚くと話す。7合目の山小屋は建て替えられ、きれいなトイレになっていた。8合目の先の小屋のトイレも水洗だった。汚物はおがくずやカキ殻で処理する。パイオの力である▼すべて有料で、おおむね1回200円のチップを払う。そのため登山客は小銭をたくさん用意していくのが常識と聞いて、なるほどと思う。ただ強制ではないから本人の気持ち次第。現状では維持費には足りないという指摘がある▼使いやすくなって解決というわけでもない。より大きな問題は、登る人が多すぎて、既存のトイレの処理能力を超えていることだ。毎年30万人前後が頂上をめざす。渡辺豊博・都留文科大教授の『富士山の光と影』によれば、6万人分の不足だという▼携帯トイレを普及させるという手はある。入山者を制限することはもはや避けられないという声もある。多くの人々が登りたいと願う山だけに、どのような手法で人数を抑え込むかは難しいところだ▼海外も注目する世界文化遺産である。静岡、山梨両県だけの話ではない。見て美しく登って美しい山であるためには幅広い議論がいる。